

## 令和四年度大会宣言（案）

令和元年に発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、世界的パンデミックをもたらし、日本においても文部科学省の通知により令和二年三月二日から小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における全国一斉臨時休業が行われました。その後も学校教育は大きな影響を受け、現在まで続いています。その間、人と人が対面し関わり成長していくという教育の根幹が危うくなりながらも、オンライン授業の導入、ICT環境の急速な整備、教職員の在宅勤務等の対応により、学校は生徒の「学びの保障」を図っています。本会の全国高等学校教頭・副校長会総会及び研究協議大会は、緊急事態宣言の発令等に伴い、徳島大会、沖縄大会と二年続けて、集合開催を中止し、発表資料集・大会集録の刊行に止めてきました。いま、予想を超える気候変動や世界情勢の変化が起こっています。このような時だからこそ、人と人が物理的社会的な隔たりを超えて、相互に理解し教え合い、協力して未来を拓く解決策を見いだすことが大切です。今年度の石川大会は、本会として初めて主管県内の参加者は集合参加、県外からはZoomによるオンライン参加というハイブリッド開催を行います。このことは、大変重要な意義をもつことであり、本会の今後の発展に期することです。

ところで、本年度入学生から新学習指導要領となり、スクールポリシーの公表、観点別評価、CIGAスクール構想に基づく一人一台端末の活用により、個別最適化され創造性を育む教育が始まっています。また、教育再生実行会議の後、令和三年十二月に発足した教育未来創造会議は、本年五月十日に「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）」を公表しました。予測不可能な時代の中で、高い専門性や技術力を身に付け、自分自身で課題を設定して、多様な人とコミュニケーションをとりながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていく人材の育成が重要で、高校教育では、文理横断的・探究的な教育の推進、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、STEAM教育、情報教育、アントレプレナーシップ教育等の促進を図ると提言しています。そのためには、教科横断的な学習を充実し、必要な人的・物的体制を確保し、組織的計画的に学校の教育活動の質を向上させるカリキュラム・マネジメントに努め、ふるさとに誇りを持ち、広い視野に立って社会に貢献する人間を育成することが大切です。

私たち教頭・副校長は、高い識見と広い視野を持ち、常に教育行政の動向を注視しつつ、様々な教育課題の解決に向けて率先して行動し、リーダーシップとマネジメント力を発揮していきます。そのために、研究・研鑽に励み、その成果及び経験と体験を共有し交流する機会を持ち続けなければなりません。また、学校運営組織の中心となる人材を発掘・指導・育成し、外部人材も活用し、学校の活性化・特色化を図り、よりよい社会づくりに参加する力を育てる教育を推進する覚悟です。

これらのことを銘記し、もって高校教育の充実・発展を期し、次の事項の実現に尽力することをここに宣言いたします。

- 一 広い視野に立ち夢を実現する心豊かな生徒を育てる、安全・安心な学校の整備と維持
- 一 思考力、判断力、表現力を備え、主体的に学び、新しい時代を切り拓く生徒の育成
- 一 未来につながる学校指導環境の整備と、社会に開かれた学校組織を担う人材の育成
- 一 教頭・副校長の研究・研鑽の確保、経験・体験を共有する機会の維持と推進

令和四年八月四日

第六十一回全国高等学校教頭・副校長会総会及び研究協議大会